
"知らなきゃ損！？横軸ボール盤の知られざる魅力！！"

3、モータイザーの活用

具体的にどういことが出来るのか、私の実例をあげていきたいと思います。

まず最初に思いつくのが、ダボ組みの穴あけです。ここで説明しなければならないのが位置決め「インデックス」です。

多くは長さ250mm程度の円筒形をしています。円筒の表面に小さな穴が等間隔に直線状に並んでいて、違うピッチの穴のセットが90度毎に四種類になっています。

これを所定の場所に水平に取り付け、小さな穴に本体よりピンで固定することにより左右の位置が固定され、移動ハンドルに取り付けられたレバーを握るとピンが穴から外れ横に移動できるようになっています。穴に順番にピンを固定し加工することによって、いつでも、どこでも、等間隔の複数穴あけが可能になります。

ダボを用いる場合、多軸ボール盤でもない限り、二本以上の使用は難しいものですが、この「インデックス」のお陰で、可能になります。

次に活用できるのが、ルーズテノンの長穴開けです。この場合も「インデックス」を利用します。

色々なものの制作で大きさの異なるルーズテノンを使わざるを得ないのですがインデックスを利用していくつかの大きさを決めておけば、大きさが常に一致しますので便利なのです。この穴の加工には、専用のモータイジングビットが最適ですが鉄鋼用のドリルビットでの加工も可能です。勿論、長いルータービットも使えます。

次に引き出しとか、扉のU溝ビットを使った引手の加工です。回転数が低いので、ルーター加工より少し表面は荒れますが、数がある場合位置決めが手軽なので、多用しています。低回転のお陰で「焦げ」が出にくいという恩恵もあります。

それから二枚丁番等の埋め込み加工です。ストレートビットを使ってやれば正確に、早く加工することが可能です。四角い形状の金物埋め込みの加工は何でも対応できると思います。各方向のストッパーを使うことで、大きさの設定が出来るので有効です。

ちょっと変わった使い方では、木工旋盤で同じものを多く加工する時のセンターのマークに使っています。材料を固定する定番に定規を付けて、回したドリルビットに押しつけてマークします。

以上全3回に渡ってモータイザーについてお話させて頂きました。

モータイザーっていう機械は、他の機械もそうですが、使う側の創意工夫で用途の広がりの可能性が特に大きい機械だと感じています。

「モータイザーの有用性」の項で書き忘れたのですが、勿論、回転してる刃物はカバーされてませんので直接触れば勿論怪我につながりますが、加工中の安全性は高いです。常に材料を固定して、加工はハンドルで行いますので、手が刃物に触れることが、無いからです。

皆様も是非モーターの知られざる世界に触れてみてください。

谷口清人氏
ソリウッド・プロダクツ（株）代表取締役退任後
手作り木工家具の木工房クラフソンを主宰